

# 令和7年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。  
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。

(評価者) ・(株)ネクスタス ネクステクノ 事業所長 足田 耕二 氏  
・福井県嶺北親の会 会長 北村 春樹 氏  
・福井県立嶺北特別支援学校 PTA会長 寺本 悠祐 氏

(意見)

## 1. 学校業務改善のための取組

連絡アプリでのお便り配信やWEBフォームでのアンケートは引き続き運用し、定着を図って業務改善を進めるとよい。学校全体でDXが進んでいるにもかかわらず、学校評価アンケートで業務の負担軽減や在校時間の縮減に向けたDXの成果指標が90パーセントを下回ったのは、教職員が自分の取組に対して厳しく見ているからかもしれない。今年度配置されたsurface端末を活用して、会議資料のペーパーレス化を推進することだが、運用の定着を図っていただけるとよい。

## 3. 4. 5. 6. 教育課程、学習支援

大規模校なので、それを強みとして横のつながりを大切にしたい取組をしていくとよい。クラス、ペア学習、グループ学習など違った集団で刺激をもらおうとよい。友達はお金では買えない。友達ができることで人生が豊かになる。中学部になると小学校からの入学生が加わり、学習の差ができる。外進生の保護者の要求はどうか確認するとい。高等部ではいろいろな体験ができるよう工夫をして自分に合った仕事を見つけられるようにしてほしい。先生方の負担を減らす視点から、外部講師を活用するのもよい。例えば、嶺北特別支援学校には木工の機材が整っているので、福井県産木材を使った作業をしてみるとよいと思う。就労に向けては企業側からの発信を利用してみるのもよいと思う。職業系の高校ではうまく利用している。また、卒後の人生は長いので仕事を何のためにするのか理解できるとよい。

## 7 自立支援

卒業までに寄宿舎で何を身に付けるとよいのかという視点は常に持つべきである。また、保護者のレスパイトの役割について積極的に周知していくとよい。福祉では対応してもらえない緊急の際の預かりについて検討していただけると保護者はありがたい。

## 8 健康・安全

想定外の事態が起こった際を考えていくとよい。今年度は放送設備が使えないという設定だったが、停電等もあり得る。備蓄物資の保管や運搬方法についても考えるとよい。

## 9 生徒支援

行事は学校だけでなく地域の行事にしていくとよい。学校全体での行事は労力が必要だが、終わった後の子どもたちの成長や充実感は大きい。他校が業務削減ということで行事をなくしていく中、あえて残して地域を巻き込んだ行事にしていくとよい。今年度の文化祭は児童生徒以外の参加者が600人を超えたと聞いている。卒業生が楽しみにして集まってくる。とても良い伝統だと思うので、残していくとよい。

## 10 進路支援

進路情報ファイルの情報は年々更新され、情報量も多くなっている。福井市など就労施設は100カ所を超えている。学齢期のニーズに合わせ、小中学部と高等部の2冊に分けたり、ダイジェスト版にしてみてもどうか。児童生徒は相談支援専門員に相談するなど福祉と連携し、活用するのがよい。

## 11 保護者との連携

PTAの活動はあったが、横のつながりができるまでに至らなかった。PTAは子どものためにあるので、子どものために頑張ろうと、学校に頼らず父母間でできることを企画してもよいだろう。土日や夜の活動はなかなか集まるのが大変ということもある。小さな活動を複数回開催するのもよいだろう。また、行事の開催日等、連絡が早めになると保護者も予定が組みやすくなるのではないかな。

## 【学校関係者評価を踏まえた今後について】

学校関係者からは「児童生徒一人一人の発達段階や特性、思いに沿った丁寧な支援」や「全ての児童生徒が活躍できる行事の運営」、「保護者と連携を密にした自立支援」について高い評価をいただいた。また、時代に沿った「教育と福祉の連携」についてご助言いただいた。いただいたご意見や課題については、管理職を中心に学部学年や各校務部で検討し、次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。